



TITLE:

## 米國のI.W.W.運動の研究(二)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

---

CITATION:

米田, 庄太郎. 米國のI.W.W.運動の研究(二). 經濟論叢 1919, 8(5): 616-635

ISSUE DATE:

1919-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/127525>

RIGHT:

## 米國のI.W.W.運動の研究(二)

米田 庄太郎

### (四) 米國に於ける勞働組合と社會主義及び無政府主義との關係

米國に於ける産業組合主義は如何なる事情の下に、如何にして發生せしかは、前節に於て簡単に論述したが、吾人は之れによりて革命的産業組合主義を唱道するI.W.W.の根本的一要素たる産業組合主義の起源を理解することが出来たと思ふ。併しI.W.W.は單に産業組合主義を唱道するに止まらず、其の唱道する産業組合主義は又革命的のものであるのである。されば吾人は更に産業組合主義が如何にして革命的となつたかを究明するに非らずば、未だ十分にI.W.W.の起源を理解したとは云はれない。而して米國に於ける産業組合主義が如何にして革命的のものとなつたかを究明する爲めには、余は先づ同國に於ける勞働組合と社會主義及び無政府主義との關係の發達を研究せねばならぬと思ふ。本節に於ては此の問題を論究して、以てI.W.W.の起源を闡明するに必要なる資料を求めることとする。

歐洲何れの國民の勞働運動の發達に於ても、吾人は社會主義が始めより直接又は間接に重要な一勢力となつて居ることを見るが、米國に於ても同様である。併し特に勞働組合と社會主義と

の關係を考察すると、或國民に於ては勞働組合は社會主義より獨立して大なる發達を遂げ、而して後に之れと密接なる關係を有するに至つたことを見るが、他の國民に於ては之れと異りて、勞働組合が始めより社會主義の影響の下に發達して居ることを見るのである。米國は前者の一例にして同國に於ては勞働組合は社會主義より獨立して發達して居る。而してかゝる場合に、何れの國民の勞働運動の發達に於ても見る如く、米國に於ても矢張り、社會主義者は先づ勞働組合を社會主義化せしめて、以て勞働者の大團結を造らんと努力して居つたことを見るのであるが米國社會主義者の此の努力は、殊に千八百七十年代よりして著しく現はれて居る。

此の年代に入るまでは、米國の社會主義者は幾多の小團體に分れて居つて、國民的に合同せんとする傾向は甚だ微弱であつたが、種々なる事情によりて、殊に勞働組合を社會主義化せしめんが爲めには、先づ彼等自身か合同して一大團體を造る必要からして、此の年代に入りてより、彼等の合同或は少くも協働を圖る爲めに大會が屢々開設されて來た。而して社會主義的勞働黨の設立が企だてられ、「社會主義者勞働黨」(The Socialist Labor Party)が組織されて來た。但し此の「社會主義勞働黨」と云ふ名稱は、千八百七十七年ニューヨーク市にて開設された第三回目の大會に於て採用されたものにして、夫れ以前の大會に於ては異なる名稱を附けて居る。而して千八百七十六年ピッツバーク市に於て開設され、「合衆國勞働者黨」(The Workingmen Party of the United States)と云ふ名稱にて、社會主義的勞働黨を組織せる第二回目の大會は、米國社會主義者の合同運動の發達上甚だ重要な意義を有するものであると思ふから、余は茲に此の大會の事

から説述し始めて、其の後に於ける社會主義と労働組合との關係の發達を考究することとする。抑々千八百七十年代の始めに至るまでは、米國の社會主義者は大體上マルクス主義の國際主義派とラッサル主義の社會民主派とに分たれ、兩派は種々なる問題に就て見解を異にして居つた。殊に社會主義的労働黨の組織の根本問題、及び政治的活動と労働組合的活動との關係に就て、彼等の意見が異なつて居つて、彼等の合同或は提携は甚だ困難であつた。國際主義派は國際的組織の形式を飽くまでも固持せんとするに對して、社會民主派は國際的組織は各國の労働黨に何等利益する處がないと云ふ理由によりて之を排斥し、而して強固なる國民的組織の必要を大に主張した。又國際主義派は強固なる職業組合の建設を根本的に重要視し、舊國際主義が英國の職業組合の爲めになしたると正しく同様なる働き、即ち低廉なる労働の國際的競争より彼等を保護する團體を設立せんとするに對して、社會民主派は労働政策に關してラッサル主義の思想を固持し、直ちに政治的活動を起すことを切望した。是れ亦彼等が労働黨を國民的に組織するの必要を主張せる主要なる一理由であつた。此くて兩派の提携或は合同は殆んど不可能であるが如くに見てたが、然るに千八百七十六年ピッツバーク市に於て米國労働者國民的大會を開設せんとする計畫が起るに當て、社會主義者は此の大會に於て労働運動を社會主義化する好機會が與へられたと信じ、而して其の目的を達する爲めには、先づ彼等自身が一致團結して其の大會に臨む必要を認め、此くて同大會の開かるゝ數日前同市に於て兩派の大會を催ふし、「合衆國労働者黨」を組織したのである。吾人は其の際同大會の發表せる「合衆國労働者黨」の綱領によりて兩派の妥協

が如何に行はれたかを學ぶことが出来るので、其の綱領は米國に於ける社會主義の發達上甚だ重要な意義を有するものと思ふ。併し茲には之を詳しく論述する暇はないから、只之れによりて如何に兩派が調和されたかを示すに止めて置くが、先づ其中に含まるゝ「原理の宣言」は「國際勞働者協會」の本則によりて作られて居る。併し實際的要求の大部分は社會民主派の綱領中より採用されたものである。而して此の點に於ては該綱領は千八百七十五年のゴータ綱領に大に類似して居る。但しゴータ綱領によりて獨逸に於けるマールクス派社會主義者とラッサレ派社會主義者との合同の成立せることは、米國に於ける兩派の合同を大に促進せる一因素であると云はれて居るのである。併し政治的活動及び職業組合主義に關しては該綱領は國際主義の主張を採用し、勞働黨の勢力が段々に發達して、政治上相當の影響を及ぼし得るに至るまでは、其の政治的活動を一般に議會をして勞働者階級を益する法律案を通過せしめる爲めに行なふだけに限り、主として職業組合的、即ち經濟的活動に力を注ぐことを宣言して居る。此の點は社會民主派の讓歩を示すものである。併し黨の組織に就ては社會民主派の主張が採用せられ、國民的組織が實行されたのである。

「合衆國勞働者黨」の綱領は以上述べしが如くに、國際主義の主張と社會民主派の主張とを種々に結合して作られ、以て兩派の合同を企だてたるものである。併し此の合同計畫は全然兩派の差異を消滅せしむることが出來ず、兩派の區別は矢張り持續せられ、又事に觸れて兩派の意見が屢々衝突して居るが、而も其の後は兩派の差別を云ひ表はす爲めに、國際主義者及びラッサレ派と云

ふ舊い言葉は段々用ひられなくなり、之れに代りて「職業組合的社會主義者」及び「政治的社會主義者」と云ふ新しき言葉が用ひられて來た。而して吾人は之れによりて米國に於ける兩派の差異は、根本的には如何なる點に在つたかを明らかに理解することが出来るのである。要するに國際主義派は先づ經濟的職業組合的活動を最も重要視し、政治的活動を他日勞動者階級の實力が相當に發達したる後に譲らんとするに對して、社會民主派は政治的活動を最も重要視し、直ちに之れに全力を注がんとしたのである。而して此の差異は兩派の合同の成立せる後も、「社會主義者勞動黨」内の政治派と職業組合派との争ひとして持續されたのである。

今「社會主義者勞動黨」内の政治派と職業組合派との相對的勢力は種々に變動し、或時は前者が大に勢力を振ふて後者を抑制し、或時は之に反して後者が大に勢力を振ふて前者を抑制して居ることを見るが、一般的に云へば千八百九十年頃に至るまでは、經濟界の景氣の良好なる時には職業組合派が大に勢力を振ひ、之に反して經濟界の景氣の不良なる時は政治派が大に勢力を振ふて居つた。而して千八百七十七年即ち「合衆國勞動者黨」の成立の翌年には、政治派は黨の綱領や委員會の注意を無視して、諸處の州會や市會の議員を自黨の中より選舉せんと運動し、且つ大に成功したから、夫れより政治派は大に勢力を振ふて來た。併し千八百七十九年產業的繁榮の復興は再び職業組合派の勢力を大に増加せしめ、千八百八十年の選舉運動に於ては勞動黨は全然失敗して、其の政治的勢力は千八百七十七年前の状態に逆戻りした。而して此の選舉運動の失敗を轉廻點として、米國の社會主義運動に於て、東部の都市に於ては純粹なる無政府主義の方針に進む傾向、シカゴ及

び中央西部の都市に於ては無政府主義的職業組合主義、即ち一種の革命的サンジカリズムの方針に進む傾向、及び「米國勞働聯合會」によりて代表されたる純粹なる職業組合主義の方針へ進む傾向等が發達したのであるが、I. W. W. 運動の起源の研究に於て「米國勞働聯合會」の發達は如何なる意義を有するかは前節に於て究明したから、本節に於てはI. W. W. をして革命的のものとならしめたる所以を究明する資料として、純無政府主義への發達及び無政府主義的職業組合主義への發達に就て少しく論じて置きたいと思ふ。

却説千八百八十年に於ける選舉運動の失敗によりて、「社會主義者勞働黨」は大に會員を失ない、且つ相敵對する革命派と穩和派とに分れて來た。而して千八百八十一年にはシカゴ市に於て革命的社會主義者を團結せしむる爲めに大會が催されたが、此の大會の發案者はニューヨーク市の「社會的革命俱樂部」にして、當時歐洲無政府主義者がロンドン市に本部を設けて組織せる「國際勞民協會」(The International Working People's Association) 即ち「黑色國際主義者」(The Black International) と稱せらるゝものと氣脈を通じて、甚だ過激なる思想を抱けるものであつた。此の大會に於ては勞働者の政治的活動は排斥せられ、職業組合を進歩的原理に基づきて組織するの必要が大に高調せられ、且つ「黑色國際主義者」のロンドン大會の決議が承認せられて、「勞働者の權利の侵害に對して武裝的抵抗をなす準備を具へたる團體」の設立に賛成することが宣言された。而して其の際新に設立されたる國民的社會主義團體は「革命的社會黨」(The Revolutionary Socialist Party) と命名され、自律的なる小團體の緩き聯合會として組織されたのである。併し彼等の團結は

間もなく甚だ緩んだから、之を固める爲めに千八百八十三年ピッツバーク市に於て第二の大會が催された。而して此の際大に勢力を振ふたのは當時有名なりし無政府主義者モスト(Most)にして、彼は歐洲諸國より放逐されて、其の前年(千八百八十二年)にニューヨーク市へ遁れて來たのであるが、同市の社會主義者中の革命派によりて大に歡迎され、彼等の牛耳をとることになつたのである。今此のピッツバーク大會の成就せし仕事は、つまりニューヨークの革命的社會主義者を代表するモスト一派と、シカゴ派との間に妥協を成立せしめたことである。此の大會は一方に於てはシカゴ派の一首領スピース(Spies)の決議案、即ち賃銀制度の廢止の爲めに奮闘しつゝある職業組合を以て將來の社會の基礎と認めると云ふ意見を通過せしめたが、他方に於ては「米國の勞動者に對して」發表せる宣言書、即ち「國際勞民協會のピッツバーク宣言書」(The Pittsburgh Manifesto of the International Working People's Association)として知らるゝ有名なる宣言書は、全くモストの思想及び精神に基づいて作られたるものにして、其の中には職業組合の事は全く記述して居らない。此の宣言書は米國無政府主義の歴史に於ける最も重要なランド・マークとなれるものにして、此のピッツバーク大會に於て設立されたる「國際勞民協會」即ち「黑色國際主義者」と稱せらるゝものが間もなく消失せる後も、無政府主義者の信仰箇條を最も明亮に表現するものとして、彼等の尊奉する處となつて居るのである。而して余は其の中にI.W.W.の重要な或要素が含まれて居ると思ふから、茲に其の一斑を少しく述べて置きたいと思ふ。

ピッツバーク宣言書は先づ國家も教會も、亦現時の學校制度すらも、總て現代の社會組織は勞



働者の解放に對する障害であるとして之を非難し、此等の社會的制度は資本主義の没落と共に總て消滅す可べものであると斷言し、而して又一切の社會改良的努力は無効であると言明して左の如く述べて居る。

吾人は此の奇怪なる組織を平和なる手段によりて改良せんが爲めに、過古に於て行はれたる一切の企だては悉く無効であつたこと、又將來に於ても總て同様なる努力は必然的に無効ならざるを得ざることを、多數の實例によりて示すことが出来る。……吾人の時代の政治的制度は資産者階級の手先きにして、彼等の使命は彼等の主人の特權を維持することにある。而して汝等労働者の爲めに行はるゝ何れの改良も、つまり其等の特權を傷害することになるであらう。……資産者は其等の特權を任意に放棄しないであらうと云ふことは、吾人の既に熟知する處である。……されば吾人は吾人に與へらる可き如何なる救済に就ても、吾人の主人の親切に依頼せねばならぬが、而も彼等よりして如何なる善福をも望み得られないことを知るに於ては、吾人の頼みとす可きものは只一つあるばかりである。夫れは即ち腕力<sup>マウス</sup>である。

腕力によりて吾人の祖先は政治的壓制より免がれたのである。彼等の子孫は腕力によりて經濟的束縛より脱却するであらう。ジャファソンの云へる如く「されば武器をとるは汝等の權利であり、汝等の義務である」。

該宣言書は夫より「吾人の成就せんと欲するものは簡單明瞭に」左の如くであると宣言して居る。

(1) あらゆる手段、即ち猛烈な、酷薄な、革命的な又國際的な活動によりて、現在の階級的支配を破壊すること、

(2) 生産の協力的組織に基づける自由社會を設立すること、  
「コーラス・レヂヴ・カリーガニゼーション」

(3) 商業及び利潤取引を總て廢止し、生産組合によりて又彼等の間に行はるる等價生産物の自由交換を發達させること、

(4) 世間的、科學的及び平等の基礎の上に男女に對する教育を組織すること、

(5) 男女又は人種の差別に關せず、總ての人々に平等の權利を認むること、

(6) 聯合主義に基づき、自律的(獨立)なる團體 (Communes and associations) 間に締結される自由契約によりて一切の公共の事柄を規制すること、

ビツバーク宣言書の大要は以上述べしが如きものにして、つまり、「國色國際主義者」の思想及び主張を約説せるものである。而して黒色國際主義は當時ニューヨーク市に居住せるモストを中心として唱道せられ、同市は米國に於ける該主義の發源地であつたが、併し該主義の遵奉者は間もなくシカゴ市に於て大に増加し、同市は該主義の最大中心となつたと同時に、茲に無政府主義と職業組合主義とが結合されて、佛國の革命的サンデカリズムに類する新主義が起つて來た。而して此の新主義はI.W.W.運動の起源を研究するに當て甚だ興味あるものである。

今右の新主義の代表者として最も重要な地位を占めて居つたのはオーグスト、スピース及びアルバート、バーンソンズ (August Spies and Albert Parsons) であるが、茲に彼等が千八百八

十三年より千八百八十六年に至るまでに盛んに唱道せる思想、并に夫れに基づいて組織されたる「米國金屬労働者聯合組合」によりて該新主義の大要を述べて置く。

彼等は先づ將來の社會の理想を立て、之を以て任意的團結と見做し、而して左の如くに論じて居る。「如何なる憲法も法律も亦條例も人々を團結せしむる爲めに必要でない。尙ほ又如何なる結合或は團結も嘗て此等のものによりて産み出されて居らない。此等のものはつまり團結が成立したる後に其の瓦壊を豫防する爲め、或は他の目的に之を運用する爲めに工夫されたるものである。團結を持續する爲めに今日までに工夫されたる總てのものを除き去れ、其の際には人々は一層喜んで、又一層熱心に團結するであらう、而して無限により多く成就するであらう。吾人は總ての規則及び條例は只自然法の發動に干渉して、人類の不利益を齎らすだけのものであると信ずる。吾人は國家社會主義を信じない云々」。

次に彼等は職業組合を大に重要視して居つて、而して彼等の新説の特色は殊に其の點に於て發揮されて居るのであるが、今彼等の考ふる處によれば、「國際主義者は職業組合に於て將來の自由社會の胚種的團體を認める。各職業組合は其の意識すると意識しないとに係らず、カ解卵中の自律的團體である。職業組合は資本主義的生産の一必要物であるが、而も普遍的自由協働組織の下に於ては資本主義的生産に取り代るものである。吾人の友よ、國際主義は決して職業組合其物を非難して居らない、吾人は只彼等の或者が用ゆる方法を非難するだけである。而して或人々は全く意識して居らない様であるが、吾人の見る處によれば、資本主義の發達は總ての職業組合と無政府

主義とが必然的に全然合致する日を速めつゝあるのである」。

而して右の思想に基づいて組織されたる標本的な職業組合は、「米國金屬労働者聯合組合」(The Metal Workers Federation Union of America) であるが、其の「原理宣言」の中に左の如く述べて居る。「夫れ労働の解放は労働時間の規制によりても、亦賃銀の豫定表を作製することによりても、齎らし得らるゝものでない。より高き賃銀或はより短き時間に對する要求及び努力は、假令許容されたればとて只短時期の間賃銀労働者の生活條件を改善するに過ぎないであらう」。今日組織されて居るが如き職業組合の組織の形態が不完全であるのは、是れ彼等は「執行委員と稱せらるゝ小數の人々によりて統御されて居るからである。此等の人々は如何に誠實であつても労働民衆の眞の地位を明らかに觀識することが出來ない、更に之れに就て他人に教ゆるには一層適しない」。労働者は今日の職業組合の機會主義を斷然放棄して、「社會の現制度を全廢し、自由社會に於ける生産の協働組織に基づける新制度を以て、之れに代ゆることによりてのみ、只労働者は解放され得る」と云ふ語を格言としなければならぬ。而して此の目的を達する爲めには、職業組合は「其の管理が少數者の手に集中されず、會員全體の意志に基づいては行はれ、各會員は進歩の事業に於て夫れ夫れ自分の役目を演ずることが出來る」様に組織されねばならぬ。更に「吾人の團體は社會の新しき條件に對して、其の會員を教育する學校であらねばならぬ。而して其の新しき條件の完備する時には、労働者は常に彼等の目的を裏切する恐れある小數者より、何等の干涉をも受けずして自分の事柄を自分で處理するであらう」。同時に「吾人の團體は其の會員をして、彼等が人間として生

活するを得るに適する報酬を収めしむることを目的とする」。併し如何なる事情の下に於ても、彼等は政治に訴へてはならぬ。「生産者階級の解放は彼等自身の努力によりて得らるべきものなるが故に、今日の政治に携はるは賢明でない」。之に反して「労働民衆の一切の直接奪闘に對しては、吾人は最も充分なる同情を有するのである」。

以上述べしだけでも、吾人は千八百八十五年に設立されたる「米國金屬労働者聯合組合」の主張が、如何に佛國の革命的サンデカリズムの主張に類似して居るかを學ぶことが出来る。彼等は職業組合を以て組成の單位とする自由社會を渴仰し、中央集權的組織を排斥し、政治的行動を非難し、而して之に反して直接行動を高調して居るので、若し之れに總同盟罷業説及びサボターデユの觀念を加ふれば、彼等の主張は佛國の革命的サンデカリズムと殆んど一致してゐるのである。されば吾人若し I. W. W. の前身を米國の労働運動史上に於て求めんとするならば、夫れは今日幾多の學者の考へて居る如く「労働ナイト會」ではなくして、「米國金屬労働者聯合組合」であると云はねばならぬ。而も職業組合主義に對抗するものとして、産業組合主義の觀念を意識的に確立して居らないと云ふ點に於て、兩者の間に重要な差異があると認めねばならぬと思ふ。

却説千八百八十三年頃よりして「黑色國際主義」が、上に述べしが如くに無政府主義的運動を起し、又其の思想がシカゴ派に於て職業組合主義と結合されて、一種の革命的サンデカリズムを産み出したのであるが、此の際更に「赤色國際主義」と稱せらるゝものが又盛んに運動を起して來た。併し此の「赤色國際主義」と稱せらるゝ一派は、矢張りロンドンに本部を有する無政府主義的な「國

際勞民協會」に加入して居つたに係らず、國家社會主義を奉じ、而して現時の政策としては政治的行動にも、亦暴力手段にも反對して居つたのである。

此くて此頃は「社會主義者勞働黨」は「黑色國際主義者」の團體と、「赤色國際主義者」の團體とに壓迫されて其の勢力は大に衰退した。而して千八百八十五年頃より漸く勢力を恢復し始め、勞働者の政治的運動には敢て與られなかつたが、併し八時間運動や其他の經濟的行動には進んで協力して居つた。更に千八百八十六年ニューヨーク市の市長選舉の際には、ヘンリー・ジョージを労働黨の候補者として盛に選舉運動に携はり、又千八百八十八年までは種々なる労働者の政治的及び經濟的運動に協力して居つた。併し彼等が此の如くに労働黨の運動に参加した本來の主意は、職業組合を社會主義化する爲めであつた。彼等は労働黨の運動の目的其の物の爲めよりは、寧ろ職業組合を社會主義の味方に引き入れる一手段として其の運動に参加したのである。併し彼等は其の目的に於ては全く失敗した。而して夫れより彼等は職業組合一般に對して反對の態度を表はして來た。もつとも此の際にもニューヨーク市にある獨逸人社會主義者は職業組合運動と更に一層密接なる關係を作り、而して政治的行動を當分全く放棄することさへも主張して居つた。併し反對派は今や勢力を振ふて來た。而して千八百八十八年の選舉には明らかに社會主義を標榜して運動した。而も其の失敗のあまりに悲慘なりしことは、彼等をして大に失望せしめた。且つ此の際「米國勞働聯合會」が八時間運動を起して大に活動して來たことは、「社會主義者労働黨」内の職業組合派の勢力を復興せしめた。更に千八百八十九年の市會選舉運動に於ける失望的な結果は

益々職業組合派の勢力を増した。而して「社會主義者労働黨」と「米國労働聯合會」との關係は大に友誼的になつた。又千八百八十九年にはニューヨーク市の社會主義者は「中央労働聯合會」(The Central Labor Federation)を組織し、「米國労働聯合會」より加盟認可狀を與へられた。此の「中央労働聯合會」はもと「中央労働協會」(The Central Labor Union)より分離せる社會主義者によりて設立されたものであるが、再び之れと合同したる後に、又之れと分離した。然るに此際社會主義者をして「米國労働聯合會」の友誼的態度を疑はしむる事件が起つた。夫れは「米國労働聯合會」は「中央労働聯合會」が三十八箇の職業組合の外に、又「社會主義者労働黨」の一部會とも聯合して居ると理由によりて、之れに加盟認可狀を與ふることを拒否したことである。而して千八百九十年の「米國労働聯合會」の大會は、「中央労働聯合會」の代議員ルシエン、セーニアルに出席を許さなつた。此くて「社會主義者労働黨」と「米國労働聯合會」との關係は全く斷絶したのである。

此の時社會主義者は大に失望したが、而も尙ほ「米國労働聯合會」を社會主義化する望を棄てなかつた。而して種々策を講じたが、矢張り悉く失敗に了つた。此くて千八百九十三の「社會主義者労働黨」の大會に於ては、「米國労働聯合會」が労働黨に自然に化成することを望むは、空想であると云ふ意見が一般に行はれて來た。且つ多數の労働者を鳩合する強大なる労働黨を作るには、社會主義者自身が大に活動せねばならぬことが認められた。此くて「社會主義者労働黨」は「合同猶太人職業組合」を地盤として、當時勢力の衰退しつゝありし「労働ナイト會」を手に入れんと企てた。併し之も遂に失敗に歸した。そこで社會主義者は既存の大労働團體を社會主義化せんと

するは、到底容易な業でないことを覺り、千八百九十五年に「セシヤリストウ・レベユ・ド・レボア・フライアン」を設立し、「米國勞動聯合會」にも亦「勞動ナイト會」にも對抗することゝなつた。此の同盟は千八百九十六年の始めに採用せる其の憲法に於て、社會主義及び政治的行動に賛成することを宣言し、又附則によりて「社會主義者勞動黨」と相提携することを明らかにした。而して両者の首領連は殊に「米國勞動聯合會」を盛んに批評して、其の精神の狭小なるを非難し、且つ其の謬れる方法と、連帶心の缺乏とによりて生起せるものと認められる其の幾多の失敗に、勞動者の注意を惹起した。併し「社會主義者職業及び勞動同盟」は一時大に勢力を振ふたが、間もなく衰退し始めた。殊に其の成立の際にも多數の社會主義勞動者は之れに加入せずして、「米國勞動聯合會」の中に止まつて居つた。彼等は「二重の團體を作ることにも、亦組織されたる勞動者の一般的團體から分離することにも共に有益ではないと信じ、而して「米國勞動聯合會」内に止まつて居つて、其の内部から機會のある毎に之を社會主義化せんと努力することが、最も有効であると考へた。此くて彼等は大會毎に社會主義に都合よき宣言や、獨立なる政治的行動を起さんとする決議案を提出した。又大同盟罷業の失敗する毎に、其の失敗は狹隘なる職業的精神と勞動者間に於ける連帶の缺乏との結果であることを指摘し、又同盟罷業鎮壓の爲めに政府が軍隊を使用する毎に、勞動者も獨立なる政治的活動をなし、彼等自身の代議士を選擧するまでは、彼等は常に資本家の利益を代表する政府の左右する處となることを得意になつて公言した。而して社會主義の思想は甚だ徐々であつたが、併し着實に「米國勞動聯合會」の會員間に傳はつて來た。殊に千八百九十二年に於けるホー



ムステッドの大同盟罷業、千八百九十四年に於けるブルマン會社の大同盟罷業、及び其他多數の小同盟罷業の失敗は、何れも彼等の主張の正當なるを指示した。巨大なる企業合同の發達、及び少數の大企業家の手中に經濟的勢力の益々集中されて行くことは、労働者の地位を甚だ不確實ならしむるものなる事を彼等に理解せしめた。更に千八百九十年代の中頃よりして、同盟罷業の際に裁判所が頻々と司法命令を發して來たことは、大に労働者をして憤慨せしめ、彼等の心に裁判所に對する憎惡の念を起さしめた。不買同盟の運用に加へられたる制限、労働立法に對する裁判所の態度、シャーマン排トラスト法を労働者の團體に適用して其の壓迫を圖る政府の傾向、及び在來の政黨に屬する政治家より受けたる失望的な幾多の經驗等は、總て多くの労働者をして遂に政治的行動の主張者の言に耳を欬てしむるに至つたのである。

却説以上述べし諸事情が西部の労働者殊に鑛山労働者に於て集中して、茲に米國労働運動史上に於ける輓近の一新傾向を發現せしめたのであるが、此の新傾向を代表して先づ組織されたるは「鑛山夫西部聯合會」(The Western Federation of Miners)である。此の聯合會はカール、ダレス地方に於ける有名なる同盟罷業の悲惨なる失敗の結果として産れ出で、同盟罷業の首領連が監獄内に於て工夫せるものである。彼等は監獄内に於て靜かに該同盟罷業の失敗の原因を考究するに當て、其の最も重要なものは、箇々の組合間に於ける親密なる結合の缺乏であることを發見した。此くて彼等はお獄するや否や鑛山労働者組合の代者表を集めて會議を開き、獄中の考案に基づきて該組合の強固なる中央聯合會を組織せんと企だて、千八百九十三年五月「鑛山夫西部聯合

會」を設立したが、是れが即ちI.W.W.の先驅者であつたのである。

今西部の鑛山夫の中より先づ右の如き組合聯合會が生れ出で、而して之をして米國に於ける革命的組合主義の急先鋒たらしめたことに就ては、種々なる事情があるのである。先づ當時の西部地方の鑛山夫の多くは大膽な私の強い開拓者であつた。彼等は獨立なる冒險的實搜しとして徒手で西部地方に行つたのである。然るに器械的採鑛法の使用は、彼等を賃銀勞動者の地位に推し下げた。彼等は只他人を富ます爲めに日々鑛物を掘り出す道具に過ぎないものとなつた。併し鑛物は何人の造つたものでもなく、自然の與ふるものにして、何人でも之を掘り出したるものが、當然所有し得可き筈であると云ふ念は、常に彼等の頭を去らなかつた。彼等は傭主や會社に對して非常に深刻なる反感を抱いて來た。而して事に觸れて傭主や會社に打突からうとした。是れ西部鑛山地方に於ては絶へず同盟罷業が起り、又夫れが甚だ殘酷であつた所以である。而して此の如き性質の勞動者間に於ては、さきに列舉せる種々なる事情は殊に強く感ぜられて來た。彼等は強大なる會社に對しては、鑛山の内外に働く總ての勞動者が一大團結を作り、統一的に活動するに非らずは、到底其の運動の成功を望み難いことを痛切に感じて來た。此くて彼等は産業的組織形態を採用し、之を以て彼等の聯合の根本原理となさんとするに至つたのである。又鑛山會社と州政府及び市廳との間に疑ふ可からざる連絡のあることや、同盟罷業を鎮壓する爲めに軍隊の屢々使用されることや、裁判所が司法命令を頻りに濫用する事等は、鑛山勞動者をして遂に社會主義の方針に従ふて政治的活動をなす必要を覺らしめた。此くて千八百九十六年より千九百二十一年に至るまでに、

「鑛山夫西部聯合會」は「の新組合主義、即ち形態に於ては産業的にして、方法に於ては政治的、又目的に於ては社會主義的なる組合主義の信仰を、益々明白なる言葉を以て表現して來たのである。

「鑛山夫西部聯合會」は夫れ自身に於て千八百九十六年以後急速に發達し來れるのみならず、其の形態及び性質に於て同様なる他の團體の設立を促かした。先づ千八百九十八年には「西部勞動會」(The Western Labor Union)の組織を助けて之を成立せしめたが、此の勞動會は間もなく多數の不熟練勞動者の入會を許した。但し「鑛山夫西部聯合會」が不熟練勞動者及び移動的勞動者を組合的に團結せしむることに殊に注意したのは、是れつまり彼等は鑛山會社によりて同盟罷業破壊者として容易に使用されることが出來るからである。

「鑛山夫西部聯合會」及び「西部勞動會」は一時「米國勞動聯合會」に加入したが、間もなく之を脱して獨立なる行動をとつた。更に彼等は始めは只西部地方の勞動者の利益を圖ることのみを主眼として居つたが、其の新組織の成功と又夫れが東部地方の勞動者間に大なる興味を惹起したことは、彼等をして遂に其の新組織を國民的に普及せんとする念を起すに至らしめた。而して此の念は彼等が自分等の奉ずる主義が「米國勞動聯合會」の原理に反對する新しき組合主義であることを意識するに至つて益々強まつた。殊に千九百一年に「市民聯合會」<sup>(シビルクンセンション)</sup>が設立され、資本と勞動とを友誼的關係に於て結び付けんとする計畫が起るに當て、「米國勞動聯合會」の首領達が同聯合會の爲めに大に奔走するのを見て、西部の革命的組合主義者は大に憤慨し、此の如き妥協的態度を

斷然排斥して、米國の全労働者階級を階級意識的な進撃的な組合主義に於て鳩合するの必要を感じて來た。而して其の結果として「米國労働會」(The American Labor Union)が千九百二年に設立された。是れ西部地方に於て發生せる革命的産業組合主義が國民的に組織されたる最初の形態である。而して之れに刺激せられ、此の頃よりして、又労働組合の社會的任務を從來よりも一層廣大なるものゝ觀念し、理論的に産業組合主義の新概念を明白に決定せんとする企だてが續々現はれて來た。茲には其等の企だてに付て一々述べて居る暇はないから、只産業組合主義の新概念を決定するに於て、最も功績があつたと云はるゝ「醸造者新聞」の主筆、ツラウトマン (Wm. E. Trautman) の見解を約述するに止めて置く。

ツラウトマンは多年労働運動に参加して豊富なる實際の經驗を有するのみならず、又社會主義の理論にもよく通じて居つた。且つ當時佛國に於て勃興しつつありし革命的サンデカリズムの思想及び運動をもよく研究して居つた。そこで彼は労働運動に於ける彼の經驗によりて暗示されたる思想を、革命的サンデカリズムを媒介として社會主義の一般的觀念と結合し、之によりて遂に根本的な一觀念を樹立した。夫れは即ち労働組合は將來の一切の社會主義的可能を、夫れ自身の中に含蓄する種である<sup>タネ</sup>と云ふ觀念である。而して彼は左の如く述べて居る。内外の社會主義者は今や形成中にある社會主義的共和制の管理機關が創設されねばならぬことを覺り、而して此の必要に應じて労働團體を建設して居る。併し社會全體の必要に應じて、産業の諸方針に於ける財貨の生産を如何に規制す可きやを、夫れ夫れ與へられたる産業に直接従事する人々よりも、より能く誰か

判斷し得るか。……………

産業的組織インダストリアル・オーガニゼーション（産業組合）

は社會主義的基礎の上に築かれたる社會の先驅である。而して其の中には生産及び分配の機關の、より多く科學的なる管理を準備する諸要素が含まれて居るのである」。

ツラウトマンの右の思想は當時實際に發達し來れる革命的産業組合主義の深義を、何人の所説よりも勝れて明確に決定せるものであるから、夫れはデブス、ヘーウッド、ヴァインセント、セントジョン Debs, Haywood, Vincent St. John 等の最も著名なる社會主義的勞働運動の指導者によりて熱心に歡迎された。而してツラウトマンの思想は盛んに論議され、夫れによつて多少の修正は加へられたが、其の根本的意義は益々明白に發揮された。此くて千九百二年より千九百五年に至る間に、社會主義的社會を段々に發達させて行く其の細胞として、産業組合を觀念する革命的産業組合主義の新概念は、大體上確立されたのである。

却説余は以上述べ來りし處によつて、I. W. W. の根本精神たる革命的産業組合主義の概念が、米國勞働運動發達史上の特別な事情によりて、又社會主義の思想や、佛國の革命的サンチカリズムの思想の影響によりて、先づ大體上如何にして成立したかを究明したと思ふが、是れより進んで千九百五年に於て如何にしてI. W. W. が設立さるゝに至つたか、又其の後のI. W. W. の運動及び思想が如何に發達したかを論究して見やうと思ふ。